

# 長期増分費用モデル研究会の検討事項について

KDDI株式会社

2019年11月5日

# NTT東西殿ご提案に対する弊社意見（1/3）

- 「平成31年度以降の接続料算定における長期増分費用方式の適用の在り方について 答申 第2章 1.3 次々期適用期間以降の接続料算定に向けた検討課題」の考え方を受け、長期増分費用モデル研究会（第65回）資料にて「**メタルIP電話及び光IP電話を一体とした固定電話網をモデル化の対象**として、光ファイバや無線などメタル回線以外の方法でもサービス提供可能な設備構成とした場合に見直すべき事項について検討」するとの前提条件が示されたものと認識しております。

よって、**NTT東西殿の「コストリングの対象は実際にIP網を疎通する固定電話（PSTN）に限定する」ご提案については本前提条件（メタルIP電話及び光IP電話を一体としたモデル化）を満たしていないものと考えます。**

## 長期増分費用モデル研究会（第65回）資料

### ■ モデル見直し検討に当たっての前提条件

モデル見直し検討に当たっての前提条件は、平成30年情通審答申を踏まえると、次のとおりとすることが適当ではないか。

#### ①モデル化の対象範囲について

- IP網へ移行後の接続料算定に長期増分費用方式を適用とした場合、対象となるサービスや機能の範囲は様々な選択肢が考えられる。接続料算定の効率化等のために適切な範囲を選択するためには、プライシングの観点から定量的な検証を行えることが望ましい。
- そうした定量的なプライシングの検証が可能となるよう、次期LRICモデルへの見直し検討を進めるに当たり、そのモデル化の対象範囲はメタルIP電話及び光IP電話を一体とした固定電話網を想定。

#### ②加入者回線のモデル化について

- 次期LRICモデルへの見直し検討に当たっては、第八次モデル（IP-LRICモデル）をベースとしつつ、モデル化の対象であるメタルIP電話及び光IP電話を一体とした固定電話網について、光ファイバや無線などメタル回線以外の方法でもサービス提供可能な設備構成とした場合に見直すべき事項について検討。

#### ③メタルIP電話の設備構成やコスト見通しについて把握の必要性

- IP網への移行後を見据えつつ、令和4年度以降の接続料算定に用いることを想定して次期LRICモデルの検討を進めるに当たり、実網におけるメタルIP電話の設備構成やコストの見通しを具体的に把握することが望ましい。

次期LRICモデルへの見直し検討に当たっては、定量的なプライシングの検証に資するため、第八次モデル（IP-LRICモデル）をベースとしつつ、**メタルIP電話及び光IP電話を一体とした固定電話網をモデル化の対象として、光ファイバや無線などメタル回線以外の方法でもサービス提供可能な設備構成とした場合に見直すべき事項**について検討。

# NTT東西殿ご提案に対する弊社意見（2/3）

- 前ページの内容に加え、NTT東西殿ご提案モデルについては、固定電話（PSTN）とメタルIP電話とが併存したモデルとなっており、モデル検討における基本的事項についての考え方（抜粋）1項、5項に照らすと、**必ずしも最も効率的なモデルとは言えないのではないか**と考えます。
- また、基本的事項についての考え方6項のとおり、NTT東西殿ご提案の**最終的なアウトプットに係るモデルの適用範囲等については、プライシングの議論であると認識**しており、本研究会での議論対象外と考えます。
- なお、弊社はモデル見直し検討に当たっての前提条件及び基本的事項についての考え方を踏まえ、効率的な「メタルIP電話と光IP電話を一体とした光アクセスモデル」を提案しております。

## モデル検討における基本的事項についての考え方（抜粋）

### 1項 設備・技術に関する想定

モデルで提示されるネットワークは、**現時点で利用可能な最も低廉で最も効率的な設備や技術を採用**するものとする。

### 5項 算定条件の中立性

モデルは、**仮想的な事業者が現時点で利用可能な最も低廉で最も効率的な設備と技術でネットワークを新たに構築した場合の費用を算定**するものであり、モデルで想定するネットワークは、**特定の事業者の設備構成を前提とせず**、合理的、一般的な仕様の機器を効率的に組み合わせたものとする。

### 6項 プライシングからの中立性

本研究会は、今後の長期増分費用方式に基づく接続料の算定方式の在り方等の検討に資するため、技術モデルの構築とこれを用いた費用算定を調査研究事項とするものであり、モデル入力値の適用領域や導入スピードといった事項は検討対象外とする。

モデル策定に当たっては、原則として、個別のアンバンドル要素単位コストや地域単位コストを具体的に算定する、いわゆるコストイング（費用把握方法）を専ら目的とし、算定されたコストから**実際の接続料をどのように算定すべきであるかという、いわゆるプライシング（接続料算定方法）の議論からの中立性を保つ**こととする。

- NTT東西殿ご意見

- ✓償却済み比率についてはその適用を取りやめるべき

- ◆ 弊社意見

- 償却済み比率は、「長期増分費用に基づく接続料の平成25年度以降の算定の在り方 答申」において検討された補正ロジックであり、プライシング観点で導入が適当と判断されたものと認識しております。  
したがって、コストイングを対象とした本研究会においてその見直し是非を議論することは適当ではないと考えます。

Tomorrow, Together

**KDDI**

おもしろいほうの未来へ。

*au*